

国鉄「分割・民営化」阻止／三里塚二期着工粉碎！
動労総連合の結成・「一企業一組合」の破綻で大打撃
追いこまれた当局と動労革マル

当局・動労革マル二体となった
組織破壊攻撃を粉碎せよ！ 物.3

国鉄分割・民営化10万人首切り攻撃との闘いは、文字通り、最終段階の攻防に突入している。動労千葉を先頭とする闘う国鉄労働者は、政府・自民党、財界、国鉄当局、そして動労革マルをはじめとする密集せる反動との対決をがんばり抜き、情勢を勝利的に切り拓いている。何よりも、動労千葉が、闘う国鉄労働者の闘う支柱として、厳然と存在している。そして、指導部の腐敗・墮落をのりこえて、国労共闘に結集する仲間をはじめ、多くの国労組合員が熾烈な攻撃の中で闘いの旗を守り抜いている。その決定的メルクマイルとして、「62・4・1、一企業一組合」攻撃の破産がある。

動労総連合結成で
動労革マルに痛撃

動労千葉や国労を解体し尽して、「62・4・1」までに「一企業一組合」をデッチ上げんとする攻撃に対して、われわれは、動労総連合結成をもって反撃した。

動労総連合の結成は、動労革マルに痛撃を与えている。

水戸地本・長谷川委員長、水戸支部・植田支部長に対する執行権停止の統制処分攻撃は、水戸地本全組合員の怒りを呼び起こし、第四三回臨時大会（一月一六日）での査問委員会設置を断念し、長谷川委員長の「辞任」というかたちでなんとか体裁は取りつくりつたものの、水戸地本内部における動労革マルへの怒りはさらに大きくなってき

ている。

一方、高崎では、十二月二十九日、横川機関区において動労連帯高崎の組合員が監禁・脅迫されるという事件が発生し、これに対し断固たる反撃が開始され、動労革マルの「拠点」を大きく揺り動かしている。

この、水戸や高崎での凶暴化こそ、動労総連合結成「一企業一組合」粉碎というわれわれの反撃に対する動労革マルの危機の深刻さを示すものである。

今こそ、動労総連合を強化・拡大・発展させる絶好のチャンスである。

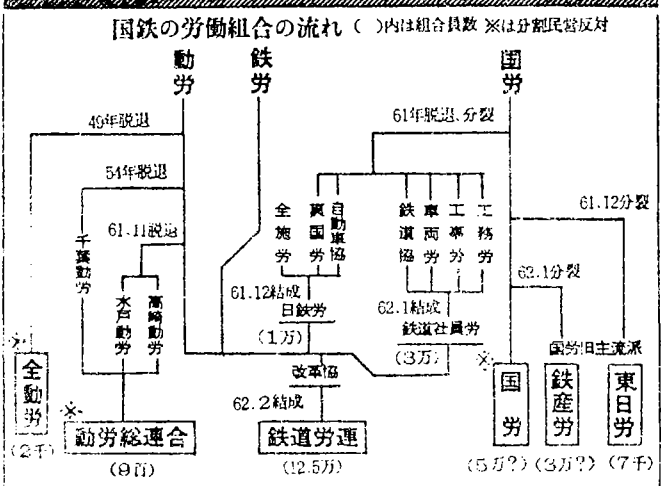
追い込まれているのは
中曽根・杉浦・松崎だ

この動労革マルのピンチに対し、松崎に泣き込まれた国鉄当局は、すでに、その1・2で明らかにしたように、動労千葉、国労を破壊するために運輸部長・斉藤、車務課長・村上らを主犯とする反動職制を動員し、悪辣な不当労働行為をはたらし、また、その背後では当局と呼応して動労「本部」土屋一派が組織破壊を狙って躍起になっている。しかし、彼らがあせればあせるほど職場からの怒りの反撃に合い、消耗し、疲弊しきっているのだ。

以上のように、追い込まれているのは、中曽根・杉浦・松崎である。

この二月、三月は、敵の矛盾がさらに噴き出す時であり、また、動労千葉―動労総連合をはじめとする戦闘的国鉄労働者が圧倒的に勝利していく時である。あせりかられた当局・動労革マルを追放―一掃せよ。

「一企業一組合」は幻想？



東京新聞2.3付あり